

統計トピックス

仙台塩釜港・仙台港区の外国貿易貨物取扱量(平成21年宮城の港湾統計)

1. 仙台塩釜港・仙台港区の位置づけ

2009年における仙台塩釜港・仙台港区（以下、単に「仙台港区」という。）の外国貿易貨物取扱量は8,297千フレート・トンとなっており、内訳は、輸出が1,595千フレート・トン、輸入が6,701千フレート・トンとなっています。これらの県内シェアをみると、総取扱量では75.5%、輸出が86.8%、輸入が73.2%となっており、特に輸出では約9割を占める状況となっています。

一方、2008年における国内港湾の外国貿易貨物取扱量をみると、仙台港区の総取扱量（シェア0.7%）は162港中31位となっており、輸出（同0.5%）は31位、輸入（同0.7%）は29位となっています。

宮城県内の港湾別外国貿易貨物取扱量（2009年）
（千フレート・トン、%）

	外国貿易		輸出		輸入	
	取扱量	構成比	取扱量	構成比	取扱量	構成比
仙台塩釜港	8,477	77.1	1,720	93.6	6,757	73.8
仙台港区	8,297	75.5	1,595	86.8	6,701	73.2
塩釜港区	181	1.6	125	6.8	56	0.6
石巻港	2,511	22.8	116	6.3	2,394	26.2
気仙沼港	3	0.0	3	0.1	0	0.0
合計	10,990	100.0	1,838	100.0	9,152	100.0

注) 1フレート・トンは容積1.133m³または重量1,000kg。

資料：宮城県「宮城の港湾統計」

国内港湾別外国貿易貨物取扱量（2008年）
（百万フレート・トン）

順位	港湾名	外国貿易		
		取扱量	輸出	輸入
1	名古屋	138	57	81
2	千葉	96	12	84
3	横浜	92	47	45
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
30	小名浜	9	1	8
31	仙台港区	8	1	7
32	伏木富山	8	2	6

注) 順位は国内港湾のうち外国貿易貨物の取扱いのある162港中の順位。

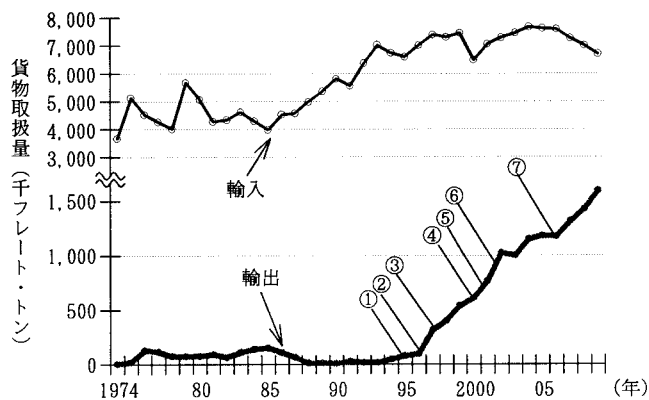
資料：国土交通省「港湾統計」

2. 外国貿易の動向

(1) 貨物取扱量の推移

1974年以降の仙台港区における外国貿易貨物取扱量の推移をみると、輸出は、70年代、80年代を通して鉄鋼を中心に年間10万フレート・トン程度で推移しました。しかし、90年代中盤からは、船舶の大型化や外国貿易貨物のコンテナ化に代表される

仙台港区の外国貿易貨物取扱量の推移



注) 図中の○付数字は次頁「『仙台塩釜港の歩み』の主な出来事」に対応。

資料：宮城県「宮城の港湾統計」（以下の図表も同じ。）

輸送改革などを背景として、国際コンテナ定期航路の開設やコンテナターミナルの整備等が進められたことなどから大幅な伸びに転じています。一方、輸入は、80年代までは概ね4～5百万トントで推移しましたが、90年代に入ってから原油などの増加により、緩やかな増加傾向で推移しています。

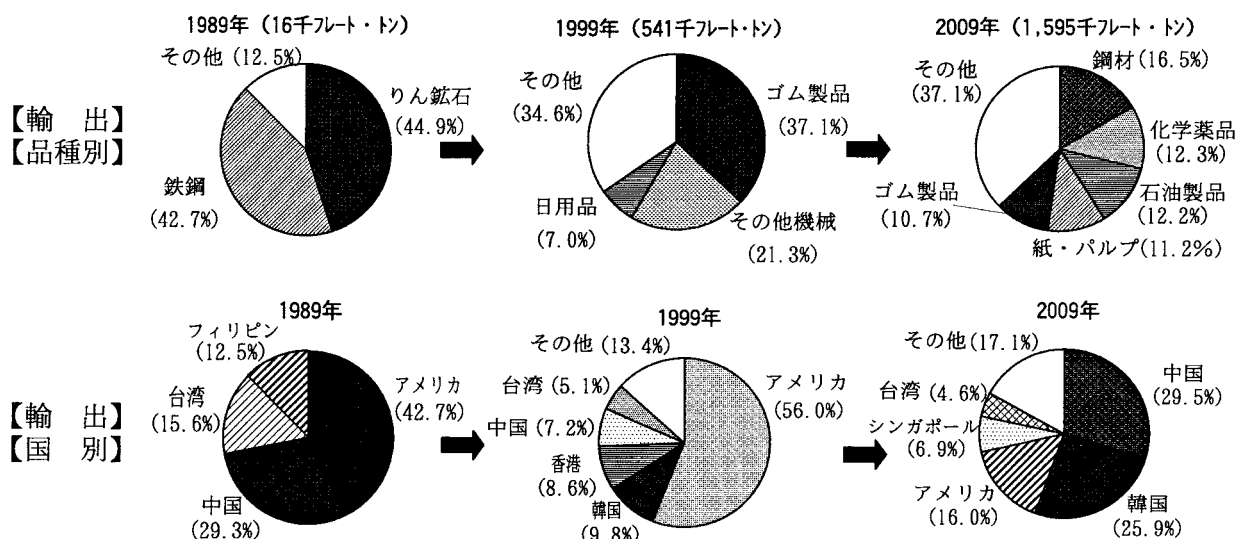
仙台塩釜港の歩み（外国貿易関連）

年次	主な出来事
1964	新産業都市「仙台湾地区」の指定を受ける
1971	開港、第一船入港
1995①	輸入促進地域（FAZ）の指定を受ける 高砂1号岸壁供用開始 東南アジアコンテナ定期航路開設
1996②	高砂コンテナターミナル完成
1997③	北米西岸コンテナ定期航路開設
2000④	韓国コンテナ定期航路開設
2001⑤	韓国コンテナ定期航路開設 特定重要港湾に昇格、港名を「塩釜港」から「仙台塩釜港」へ変更 高砂コンテナターミナル拡張
2002⑥	韓国コンテナ定期航路、中国へ延伸
2006⑦	高砂コンテナターミナル拡張

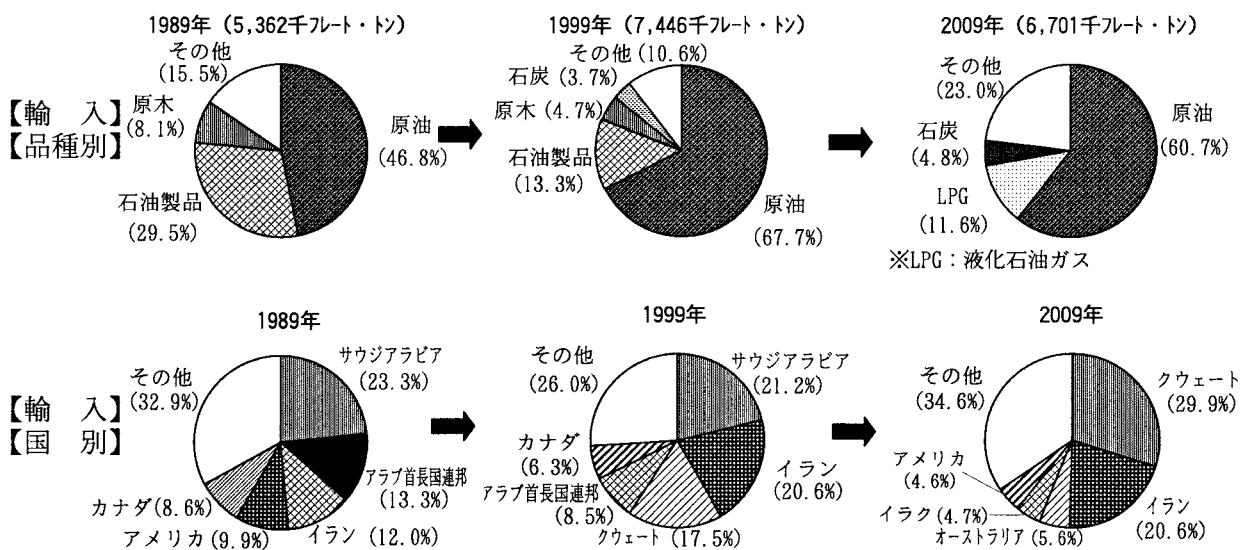
注）④⑤の韓国コンテナ定期航路は海運会社が異なる。

（2）品種別・国別貨物取扱量の推移

仙台港区における輸出貨物取扱量の推移（10年毎）を品種別・国別にみると、1989年はアメリカや中国向けのりん鉱石や鉄鋼が大半を占めていましたが、99年にはアメリカ向けのゴム製品（ゴムタイヤ・チューブ等）などが中心となりました。一方、2009年には韓国向けの鋼材（棒鋼等）や中国向けの化学薬品などの割合が高い状況となっています。



同様に、輸入貨物取扱量の推移をみると、一貫して原油の割合が過半を占める状況となっていますが、その輸入相手国の中心は89年、99年はサウジアラビアでしたが、2009年にはクウェートへ移っています。

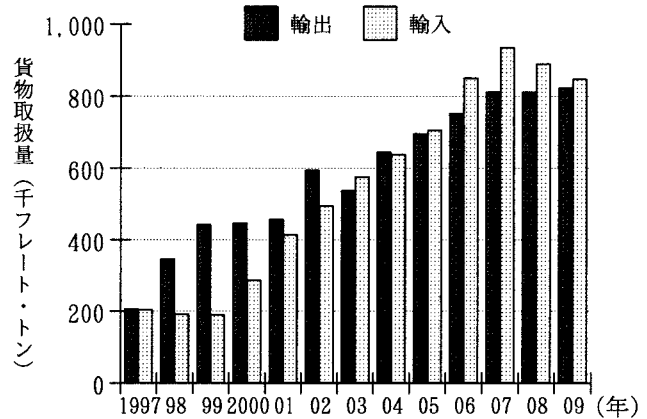


(3) コンテナ貨物取扱量の推移

2009年の仙台港区での外国貿易にかかるコンテナ貨物取扱量は1,670千フレート・トンとなっており、内訳は輸出が822千フレート・トン、輸入が848千フレート・トンとなっています。仙台港区の外国貿易取扱量に占める割合は、総取扱量では20.1%、輸出は51.6%、輸入は12.6%となっています。

1997年以降の推移をみると、輸出、輸入とも一時伸び悩む時期がありましたが、国際コンテナ定期航路の開設などを背景として、増加傾向で推移してきました。しかし、2008年以降は景気低迷などを背景にやや伸び悩む状況となっています。また、2009年のコンテナ貨物取扱量を品種別・国別にみると、輸出では中国向けの再利用資材(古紙、綿くず等)が中心となっており、輸入では韓国からの製材(板類、床板等)などが主な品種となっています。

仙台港区のコンテナ貨物取扱量の推移



品種別・国別コンテナ貨物取扱量 (2009年)

	中国	アメリカ	韓国	カナダ	その他	合計
ゴム製品	6	83	26	32	24	170
紙・パルプ	17	30	44	0	87	179
再利用資材	111	0	6	0	5	122
水産品	34	0	30	0	12	76
その他	69	114	35	0	57	275
合計	236	227	141	32	186	822

	韓国	中国	タイ	カナダ	その他	合計
製材	47	11	1	25	20	105
水産品	23	15	6	0	8	53
文房具・運動娯楽用品・楽器	20	40	0	0	16	76
家具装備品	8	26	1	0	9	45
その他	185	189	60	11	125	569
合計	283	281	68	37	178	848